

## 第32回オーエンスレーガー賞審査報告

オーエンスレーガー賞委員会  
委員長 原野 健一

オーエンスレーガー賞は、ゴムに関連する学術又は工業に貢献する貴重な積年の研究、又は顕著な累積的な業績のあった個人に授与されるもので、授与数も隔年に1件以内であり、国際的にも評価される賞として位置づけられている。なお、本賞は日本でもゴム技術を指導したことがあり、米国ゴム工業の権威者である故オーエンスレーガー (George Oenslager) 氏を記念するために、同未亡人が1957年に日本ゴム協会を通じて日本化学会に寄付した2,500ドルを基金として創設された。当初は日本化学会と日本ゴム協会合同の賞として授与されたが、第21回 (1998年) からは、横浜ゴム株式会社殿からの資金面での支援を受けて、日本ゴム協会が単独で選考及び贈呈を行って現在に至っている。

第32回オーエンスレーガー賞には、期日までに1件の候補者の推薦があった。それを受けて、2020年2月25日に本委員会を開催した。候補者自身の研究業績に関して説明を受けた後、オーエンスレーガー賞選考規程に基づき慎重な審議を行った結果、下記の候補者を第32回オーエンスレーガー賞受賞候補者として選定した。この結果は、2020年3月、新型コロナウイルスの状況を鑑み、メール審議にて理事会に承認された。

受賞者名：高田 十志和

受賞業績：新しい架橋剤の開発とゲル，エラストマーの機能化，強靱化

受賞理由：

高田氏は、高分子の簡便で有効な架橋を目的として、無触媒、無溶媒系で利用できるニトリルオキシド構造を持つさまざまな架橋剤を開発するとともに、エラストマーの機能化と強靱化を達成して、その有用性を明らかにした。特に、新規ロタキサン型架橋剤の開発、それらを用いるゲル、エラストマーの合成、機能化ならびに強靱化に関して、非常に斬新な研究を展開してきた。その成果は、学術的に重要である。構成成分間に化学結合を持たず、機械的な結合を構造的な特徴とするロタキサンにおいて、構成成分の高い自由度と運動性を活かした低分子系での研究が行われてきたが、高分子系、特に架橋系に注目した研究は少なく、かつ、その研究は実用的な観点も備えたものであり、国内外で高く評価されている。

これらの一連の研究は、エラストマーの科学に新しい世界を築いたばかりでなく、エラストマー材料・製品において、新たな可能性を見出したという実用的見地からも重要であり、ゴム産業界において多大な貢献と実績を重ねてこられたことが、本委員会において高く評価された。

以上のように、高田氏の研究は、オーエンスレーガー賞を受賞するにふさわしいと本委員会にて判断し、同賞の受賞候補者として理事会に推薦することを決定した。